

「社会福祉基礎」:外部講師の方に授業をしていただきました

テーマ「社会福祉の将来と福祉の担い手」

～施設専門職の仕事内容の理解～

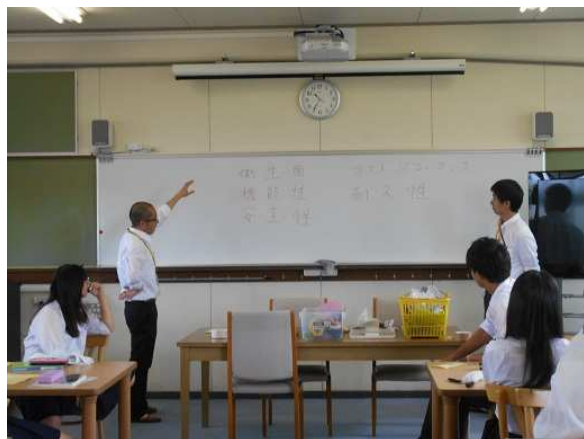
6月22日（月）2限、3年生選択科目『社会福祉基礎』において、社会福祉法人新生会総合ケアセンターサンビレッジの作業療法士 高木正剛先生、多和田政和先生による授業を行いました。内容は『補助具を作る』です。3年2組の科目選択者28名が出席しました。その様子を紹介します。

講義内容

高木先生と多和田先生は、はさみ、カッターなどの工具と箸、洗濯バサミ、紐、粘着テープなどの材料で一杯になった籠を持って教室に入ってきました。

そして、生徒たちに、「リハビリテーションや作業療法士という言葉を知っていますか？」と質問されました。生徒たちがうなずくのを見て、作業療法士の仕事が書かれた資料を配布して、次のように説明されました。

「作業療法士は、生活を支える専門家です。作業療法とは動かなくなった体を動けるようにする仕事と思われがちですが、体が動けば生活が自由に行えるでしょうか。生活の中で、『動かせる』と『使える』は全然違います。自分がしたいことを、したい時にできるようにすることが作業療法士の仕事です。訓練や補助具を活用し、私たちはそれを可能にしていきます。」



補助具は、衛生面、機能的、安全性が重要



利き腕と反対の手で豆を上手に掴めますか



使ってみての感想は？



どんな材料で道具を作ろうかな



どうやって作るか皆で相談
工夫とアイデアの勝負です

ここから実際に、補助具の作製に入りました。高木先生は、各テーブルに箸と皿にのった小豆を配りながら次のように指示しました。

「自分の利き手が事故で骨折し、右手（左手）が使えないと想定します。この場合、鉛筆をどちらで使いますか？実際に、右手が利き手の人は左手を使って字を書いてみてください。それから、利き手でない方の手で箸を使って小豆をつまんで一つの皿からもう一つの皿に移してみてください。」

実際、利き手でない方の手で箸を使うと、小豆を移すことは大変難しいとわかりました。

高木先生は、「作業療法士は訓練に加えて、**補助具**も使います。利用者さんの必要性に合わせて補助具を作り、用意するのも作業療法士の仕事です。それでは、籠の中にある工具と材料を使って箸の補助具を作ってください。その後、各班のアピールタイムで発表してもらいます。」と話されました。

各班では、箸数本、洗濯バサミ、プラスチック板、テープ、紐、針金などを使って様々な形態の補助具を製作しました。そして、アピールタイムの時間に、自分たちの作った補助具を使いながら説明しました。

高木先生は、「箸の補助具を作る際は、コロッケなどの柔らかくて形状も大きさも異なる食べ物を挟むことができる箸を使う人の状態を考えて作ることが多い」と話されました。作業療法学科では補助具製作のヒントとなるように、陶芸、木工の授業もあるそうです。

そして、「補助具製作で大事なことは、衛生面、機能性、安全性を考慮しながら、コストパフォーマンス、耐久性を上げていくことです。たとえば、針金を使う場合には安全性を考える必要があります。このように、作業療法士は、リハビリによる機能回復訓練でサポートばかりでなく、靴下を履く、爪を切るなどの日常生活の動きをより円滑に補助する方法を考えるという、アイデア勝負の世界です。工夫することが好きな人にはやりがいのある進路選択の一つとして考えてもらえるとうれいと話され、講義を終了されました。

授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

- ・作業療法士は、人の生活を支える仕事だからやりがいや達成感が大きいのだらうと思いました。
- ・身体に障がいのある人が生活しやすくするために、たくさんの人が関わっていることを知りました。
- ・作業療法士の仕事は、私のイメージとは違い、頭を使って相手のことを考えることが最も重要な仕事であることが分かりました。お話の中で、「介護されている人たちは死ぬまでずっと人の助けがないと生活できない」という言葉が心に響きました。私は、少しでもそんな方々の役に立てるよう自分にできることを実践していきたいです。

➤ まとめ

作業療法士は障がいのある方の生活を支える専門家です。自分がしたいことをしたい時にできるようにすることが作業療法士の仕事です。機能回復訓練や補助具を活用するアイデア勝負の仕事です。

～本校では、ESDを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～